

レトロで環境にやさしいが ハエには厳しい!



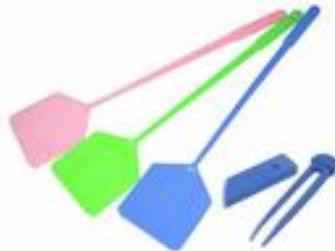
シュロ 棕櫚の葉のハエたたき

このシュロ(棕櫚)のハエたたき(鹿児島弁では、へうっぼー(ハエ打つ棒)は、M副長が幼少(子供のころ:ビーバースカウトの年齢ぐらいかな)のころじーちゃんが、作っているのを見た記憶があるが、うちのじーちゃんは、このハエたたきで蜜蜂の巣箱にくるスズメバチを退治していたので強度は十分のようだ。その後ハエたたきは金属製~樹脂製に変わり、最近では叩いた虫を摘んで捨てるピンセットが収納されている物や、電気ショックでやっつける物が出ている。このシュロ製が活躍したのは、物が不足していた戦時中で、当時は馬や牛もたくさんいて、ハエの数も今より多かった。半年ぐらい前にアウトドア雑誌【BE-PAL】に、これの作り方の記事が載っていたが、残念ながら当該号は捨ててしまった。でも、まあ、そんなに複雑な物ではないので、我流で行くことにする。そういえば最近家バエを見かけなくなったが、キャンプ時のハエ・蚊・蛾・カメシなどの対策に備え、春までには作成した方が良さだろう。昼と一緒に最初は緑色で、青草の香りが清々しい。今年の県キャンポリーでは注目間違いなし! だろう。たぶん? シュロの枝は竹のように柔らかくなるので、ハエに対して程よいダメージを与える。

号外
M副長新聞
今回は、チーム・マイナス6%ぽいぞ!
2009.2.1
第14号



お馴染みの樹脂製(ピンセット付)



近未来型: 電気ショックで撃退

おー! これは懐かしい。金属製

私は
チーム・マイナス6%です

棕櫚(シュロ、学名: *Trachycarpus fortunei*) は、ヤシ科の常緑高木。庭園で装飾樹として用いられる事が多い。樹皮はシュロなわとして古くから利用されている。管理が少なく済む為、手間がかからない。排水良好な土地を好み、乾湿、陰陽の土地条件を選ばず、耐火性、耐潮性も併せ持つ強健な樹種である。反面生育が遅い。牛久でもあちこちで見られる。刈谷自治会館の小山(古墳)や西側斜面の林にも生えているぞ。



樹姿: これは葉先がピンとしているので洋棕櫚(ようしゅろ)



葉姿: これは葉先が垂れているので和棕櫚(わしゅろ)



花姿: 5~6月にかけて咲く



樹皮: シュロなわに使われる。また、十姉妹の巣材や鯉・金魚の産卵材

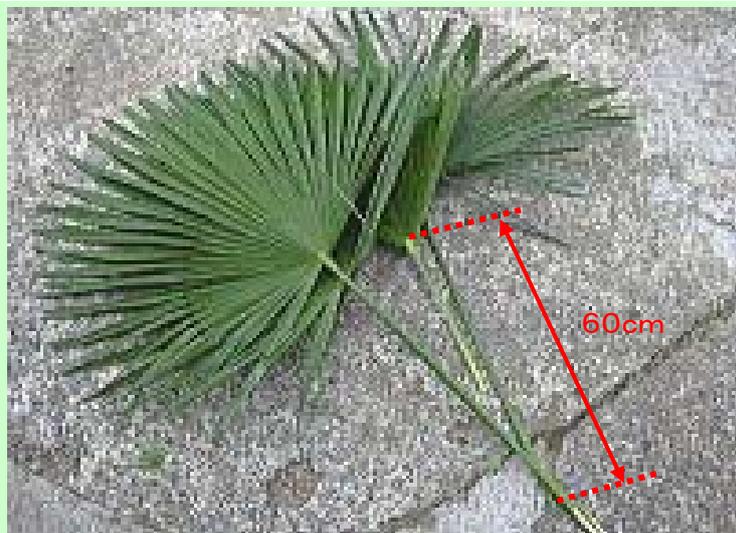
レシピ(材料と作り方)

- ・材料**
①シュロの葉(必ず木の持ち主に許可を得ること) ②タコ糸(ビニールヒモなどの細めのヒモでもOK)

- ・道具**
①ナタまたはノコギリ(葉っぱを切り落とす時に使用) ②ハサミ(タコ糸や葉っぱを切る時に使用)
③ナイフ類(枝の部分のギザギザを取る時に使用) ④ドリルまたはキリ(お好みで柄にヒモを通す)

今回の製作費は、タコ糸はなぜか会社にあったものをもらったので0円なり。

* 人件費及び機器損料は除く。



1. 木から葉っぱ枝を60cmくらい残り「エイヤー！」とナタまたは、ノコギリで「ギコギコ」と切り落とす。



2. 葉先の余分な部分を切り、1日ぐらい日に当てて乾燥させる。**注意!** 生葉で作ると収縮して糸の結び目がゆるくなる。この時に枝の部分には細かい棘状のものがあるので、削っておく。葉を手で束ねて、付け根から25cmぐらいの所で先の方を切り落とす。



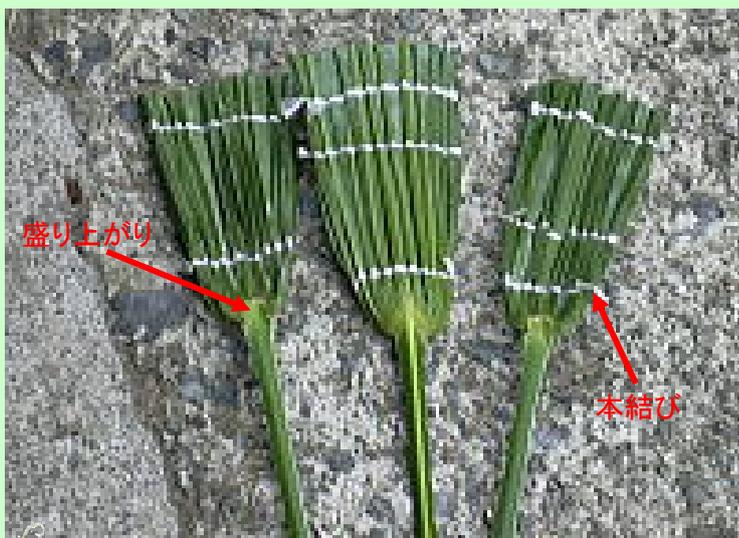
3. 葉を3~4枚ずつ一まとめにして付け根まで裂く。一番下の部分にたこ糸を引っ掛け、かがり始める。引き裂いた葉3・4枚を一束にし、たこ糸を八の字のようにして シュロの葉の一束一束を交互に編んでいく。そのとき、両足の間にシュロの枝を挟み、動かないようにした方がやりやすい。

これを三段繰返す。このとき、編む方向が交互になるよう一段目を右から編んだ場合は、二段目は左から、三段目は右から編みます。
* 編む回数は、三段以上でも良い。

各段の最後は、束と束の間が開かないようにたこ糸をぎゅっと絞り、ボーイスカウト基本中の基本本結びで留める

4. 最後に、はさみを使って、シュロの葉の長さを揃え、形を整えて完成。
葉の付け根は盛り上がっているので、ここも削る。
* 最初に削っても問題ない。

完成!



やられたー!



棕櫚の葉でバッタを作ろうはこちらから
<http://www2.ocn.ne.jp/~yuukoubo/batta.html>

~ 今回は(今回もか?)スカウト受けが良さそうでない内容になってしまった。でも、まあ良いか。 ~